



平成24年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月14日

上場取引所 大福

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社
コード番号 9656 URL <http://www.greenland.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江里口俊文

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 渡邊和雄

定時株主総会開催予定日 平成25年3月28日 配当支払開始予定日 平成25年3月29日

有価証券報告書提出予定日 平成25年3月28日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年12月期の連結業績(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期	7,635	4.2	269	58.5	205	121.6	127	122.4
23年12月期	7,329	△5.1	170	△42.0	92	△52.5	57	△52.1

(注) 包括利益 24年12月期 135百万円 (129.7%) 23年12月期 59百万円 (△45.4%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
24年12月期	12.45	—	1.3	1.0	3.5
23年12月期	5.60	—	0.6	0.4	2.3

(参考) 持分法投資損益 24年12月期 ー百万円 23年12月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年12月期	21,676	10,169	46.9	995.30
23年12月期	21,668	10,094	46.6	987.93

(参考) 自己資本 24年12月期 10,169百万円 23年12月期 10,094百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
24年12月期	633	△371	△235	310
23年12月期	383	△58	△350	284

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
23年12月期	—	2.00	—	4.00	6.00	61	107.2	0.6
24年12月期	—	2.00	—	4.00	6.00	61	48.2	0.6
25年12月期(予想)	—	2.00	—	4.00	6.00	—	—	—

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,800	4.2	70	59.4	40	266.9	5	△47.7	0.49
通期	7,700	0.9	290	7.5	220	7.1	130	2.2	12.72

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

24年12月期	10,346,683 株	23年12月期	10,346,683 株
24年12月期	129,149 株	23年12月期	128,892 株
24年12月期	10,217,678 株	23年12月期	10,217,842 株

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく連結財務諸表に対する監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、〔添付資料〕5ページ「1. 経営成績に関する分析 2)次期の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	7
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	7
2. 企業集団の状況	8
3. 経営方針	10
(1) 会社の経営の基本方針	10
(2) 目標とする経営指標	10
(3) 中長期的な会社の経営戦略	10
(4) 会社の対処すべき課題	10
4. 連結財務諸表	11
(1) 連結貸借対照表	11
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	13
連結損益計算書	13
連結包括利益計算書	14
(3) 連結株主資本等変動計算書	15
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	17
(5) 継続企業の前提に関する注記	18
(6) 連結財務諸表に関する注記事項	18
(セグメント情報等)	18
(1株当たり情報)	19
(重要な後発事象)	19
5. その他	20

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

1) 当期の経営成績

当連結会計年度の当社グループを取巻く環境は、北海道における冬季の豪雪や、九州における梅雨の豪雨による一時的な影響がありましたものの、東日本大震災の影響が解消し、国内外の個人消費が回復したことや、ゴールデンウィークや夏休み等の繁忙期が天候に恵まれたことに加え、遊園地におきましては、大型アトラクションの新規導入及びイベントによる集客が順調に推移いたしました。

その結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高7,635,507千円（前連結会計年度比305,641千円増）、営業利益269,905千円（前連結会計年度比99,661千円増）、経常利益205,435千円（前連結会計年度比112,708千円増）となり、当期純利益は127,237千円（前連結会計年度比70,025千円増）となりました。

	当連結会計年度 (千円)	前連結会計年度 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	7,635,507	7,329,865	305,641	4.2
営業利益	269,905	170,243	99,661	58.5
経常利益	205,435	92,726	112,708	121.6
当期純利益	127,237	57,212	70,025	122.4

事業の種類別セグメントの概況は、次のとおりであります。

(遊園地事業)

九州の『グリーンランド』におきましては、季節毎に多彩なイベントを開催いたしました。春のイベントにつきましては、集客効果ならびに収益性の向上を目的とし、開始期日を例年より1週間早め、平成24年3月3日より開催いたしました。内容につきましては、「レジェンドバトルステージ」と題し、期間を前後半に分け、前半の3月3日から4月20日にかけての49日間は、海賊戦隊ゴーカイジャーを、後半の4月21日から6月3日にかけての44日間および6月9日から7月1日にかけての土・日8日間は仮面ライダーフォーゼをメインキャラクターとし、当遊園地ならではの迫力のアクションショーを開催いたしました。また、3月3日から5月6日にかけての65日間は、「モンスターハンターワールドG in グリーンランド」と題し、幅広い世代に人気のあるゲームソフト「モンスターハンター3（トライ）G」をテーマにした体験型アトラクションを開催いたしました。さらに、5月20日には、人気絶頂のお笑い芸人を起用した「スギちゃんお笑いライブ」を開催しました。

夏のイベントにつきましては、7月15日に「さのよいファイヤーカーニバル2012」を開催し、毎年恒例の30分で8,000発の打上げ花火に加え、総数75チームが参加した「さのよい踊りコンテスト」を開催し、多くのお客様に楽しんでいただきました。

また、7月14日から9月2日にかけて、漫画やアニメで人気のキャラクター「トリコ」をテーマにした体験型アトラクション「トリコグルメツアー in グリーンランド」を開催するとともに、夏休みの週末やお盆期間を中心に、「仮面ライダーフォーゼ ステイツチェンジバトル」を開催し、さらに、8月14日には仮面ライダーフォーゼの出演俳優によるトークショーを実施する等、様々なイベントを開催し、集客を図りました。8月の夜間営業におきましては、園内の夜間イルミネーション演出等、光の演出の拡充に加え、「サマー大道芸パフォーマンスステージ2012」を開催し、さらに、9月1日に大花火大会「タマホームスペシャル2012 第9回花火物語」を開催いたしました。

秋のイベントにつきましては、9月15日から11月25日までの72日間、アメリカを拠点として、世界各国でショーの実績があるバイクスタントチームによる「アメリカンフライングバイクショー」を開催いたしました。また、3連休には、子どもたちに人気の様々なキャラクターショーを開催し、ファミリー層の集客に努めました。その他に、10月7日から10月31日にかけて園内各所において、ハロウィン装飾、ハロウィン特別飲食メニュー等を展開した「ハロウィンフェスティバル in グリーンランド」を開催し、10月7日の初日には、ハロウィンの音楽に合わせた打上げ花火や、ハロウィンをイメージした仕掛け花火を取り入れた「ハロウィン花火ショー」を開催いたしました。

冬のイベントにつきましては、大晦日には「グリーンランドカウントダウンパーティー MEGAMAX」と題し、年明けの打上げ花火ショーに加え、若年層に人気の高いアーティストによるコンサートや、福岡よしもとによるお笑いライブや、「九州男児新鮮組ブレイクダンスショー」等を開催し、多くのお客様にお越しいただきました。また、昨年に引き続き、カウントダウンの営業体制を2部構成とし、午後4時からの入園券を、アトラクション1回利用券付きとして販売し、園内での回遊性ならびに売上の拡大に努めました。

施設面におきましては、期間限定アトラクション「キッズアクア」や「フィッシュセラピー」をはじめ、九州初登場のアトラクションとして、3月には「カード迷路『ぐるり森大冒険』」を、7月28日には「スターフライヤーゴクウ」をオープンし、集客に努めました。また、「スターフライヤーゴクウ」の導入に伴い、夏催事のオープン日である7月14日にフリーバス料金の改定を実施いたしました。また、7月21日から8月31日にかけて営業する、大型プール施設「ウォーターパーク」におきましては、昨年オープンしたアトラクション「ジャブリントウン」をはじめ、合計8つのプールゾーンを揃え、多くのお客様に楽しんでいただきました。

このように、季節毎の多彩なイベントの開催や、大型アトラクションのオープン等による集客効果が奏功し、さらに、ゴールデンウィークや夏休み等の繁忙時が好天に恵まれたこともあり、その結果、当連結会計年度の利用者数は、前連結会計年度比20,640人増加の873,233人となり、売上高は前連結会計年度比288,867千円増加の3,431,282千円となり、営業利益につきましては、前連結会計年度比52,320千円増加の302,138千円となりました。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、春イベントといたしまして、「国立ボリショイサーカス」や、人気キャラクターをテーマにした「3大ヒーロー&ヒロイン大集合」を開催し、ファミリー層の集客を図りました。夏から秋のイベントにつきましては、7月21日と22日の2日間、いわみざわ公園及び遊園地内の合計4つの会場を利用し、きりりばみゆばみゆや一青窈をはじめとする、多彩なアーティストによるコンサート「JOIN ALIVE (ジョインアライブ) 2012」が開催され、多くのお客様に楽しんでいただきました。また、8月4日から8月12日にかけて、「ロシア文化フェスティバル」と題し、サハリン州の芸術グループによる人形劇やコンサートを開催いたしました。さらには、夏休みや秋の休日を中心に、「2012サマー&オータムフェスティバル」と題し、テレビ等で人気の様々なキャラクターのショーを開催いたしました。さらに、夏の花火イベントといたしまして、「いわみざわ彩花まつり花火大会」や「いわみざわ公園花火大会」を開催し、集客を図りました。この結果、イベントによる順調な集客により、遊園地入園者数が増加いたしました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク (スキー場)』におきましては、1月から2月にかけて記録的な豪雪となった影響で、利用者数が減少いたしました。以上の結果、北海道の遊園地ならびにスキー場を合わせた入場者数は、前連結会計年度比10,397人増加の205,511人となり、売上高は前連結会計年度比16,474千円増加の594,904千円、営業利益につきましては前連結会計年度比13,937千円増加の34,713千円となりました。

なお、いわみざわ公園管理につきましては、今年岩見沢市で開催される「第22回ばら制定都市会議 (ばらサミット)」に向け、バラ園や色彩館の整備・改善を最重要課題として取り組み、その他の施設におきましても、さらなる魅力度向上に努めました。

また、『モビリティおおむた』におきましては、昨年発生した東日本大震災の影響により減少しておりました、自動車メーカー等による試走会や試乗会の開催件数が復調したこともあり、売上高は前連結会計年度比1,959千円増加の37,823千円となりました。

以上の結果、利用者数は前連結会計年度比31,037人増加の1,078,744人となり、売上高は前連結会計年度比307,975千円増加の4,065,106千円、営業利益につきましては前連結会計年度比73,768千円増加の338,950千円となりました。

(ゴルフ事業)

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、多彩なイベントの開催による集客に加え、戦略性を高めるため、バンカーやティーグラウンド等コースの整備・改良を実施いたしました。さらに、レストラン及びロッカーームのリニューアルをはじめ、空調設備及びトイレの改修や、フロントロビー内装及び照明の模様替え等を行い、お客様が快適に過ごしていただけるよう、あらゆる面で改善に取り組みしました。

『大牟田ゴルフ場』におきましては、様々なイベントの開催や、コンペ誘致による集客に取り組みしました。また、グリーン改修等のコースの徹底した整備に加え、クラブハウスの照明や空調設備を省エネ機器に入れ替え、お客様のための快適な空間作りを実現するとともに、経費の削減に努めてまいりました。

『広川ゴルフ場』におきましては、月曜セルフデーや、お土産付きイベントの開催に加え、新規コンペ誘致に向けたセールス強化等による集客策を講じました。コース管理につきましては、カート道路の改修やティーグラウンドの改造、コース内樹木の整備等を行い、快適かつ戦略性の高いコース作りに努めました。

外国人ゴルファーに向けた取り組みにつきましては、6月26日に韓国の昌原(チャンウォン)カントリークラブと、韓国では4つ目の相互施設利用提携を結び、集客強化を図ってまいりました。

以上の取り組みを行ってまいりました結果、『グリーンランドリゾートゴルフコース』及び『大牟田ゴルフ場』におきましては、近隣ゴルフ場との激しい競争が続き、厳しい状況となりましたものの、『広川ゴルフ場』におきましては、順調に推移いたしました。

この結果、3ゴルフ場を合わせた利用者数は前連結会計年度比553人減少の143,762人となり、売上高は前連結会計年度比14,652千円減少の1,043,695千円となりましたが、徹底した費用の削減により、営業利益につきましては、前連結会計年度比3,100千円増加の11,487千円となりました。

(ホテル事業)

『ホテルブランカ』におきましては、カップルプランやビジネスプラン等、様々な宿泊プランの販売に加え、1泊2食及び1泊3食付の宿泊プランの売り込みを強化し、単価アップに取り組んでまいりました。また、館内のロビーや廊下内装のリニューアルに加え、足の不自由な方のために階段昇降機を設置する等、お客様に快適に宿泊いただけるよう努めました。また、様々なドリンクをお楽しみいただける、セルフサービス方式のビアガーデン及び鍋バイキングの営業や、屋上緑化エリア「シエロガーデン」における花火特別観覧スペース等の特色ある空間の商品化に取り組んでまいりました。

『ホテルヴェルデ』におきましては、季節に応じた様々な宿泊プランの展開に加え、フラッシュマーケティングサイト「グルーポン」や「ポンパレ」の活用や、「モンスターハンター」及び「くまモン」をテーマにした客室の販売、さらには国内外の富裕層向けに「健康診断プラン」ならびに「プラスワンデイプラン」を新たに造成する等、独自性を出した多彩な宿泊プランを販売してまいりました。料飲や宴会におきましても、季節毎のイベントの開催やメニューの刷新に加え、「ヴェル婚パーティー」と題したお見合いパーティーを新たに開催する等、様々な展開を図り、集客に努めました。婚礼におきましては、イベント仕立てのウェディングフェアによる新規来館者の獲得や、情報発信の強化に取り組んでまいりました。

『ホテルサンプラザ』におきましては、季節毎に、ふぐ会席やステーキバイキング等の特色あるイベントを開催し、集客に努めてまいりました。婚礼におきましては、ブログ等の情報発信を強化し話題性を高める等、獲得件数の増加に取り組んでまいりました。

『北村温泉ホテル』におきましては、日帰り入浴とお食事セットの販売や、クラブ会員組織「おんせんくらぶ43」を立ち上げ、会員向けに様々な特典を付加したプランを販売し、顧客拡大に努めてまいりました。

このように、各ホテルが特色あるイベントの開催や商品造成に取り組み、利用者の拡大に努めました効果に加え、昨年の東日本大震災の影響による落ち込みが回復したことにより、宿泊者数は前連結会計年度比9,002人増加の97,852人となり、売上高は前連結会計年度比109,858千円増加の2,029,841千円、営業利益は前連結会計年度比36,450千円増加の47,820千円となりました。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、一昨年9月にオープンいたしましたナフコ荒尾東店の土地賃貸料が加わり、売上高は前連結会計年度比12,063千円増加の165,142千円となり、営業利益につきましては、前連結会計年度比5,209千円増加の104,356千円となりました。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、受注工事が当連結会計年度から時期がずれたこと等により、売上高は前連結会計年度比112,483千円減少の294,854千円、営業利益は前連結会計年度比25,886千円減少の40,677千円となりました。

(その他の事業)

労働者派遣事業、ギフト商品販売及び保険商品販売業につきましては、いずれも堅調に推移し、全体の売上高は前連結会計年度比2,880千円増加の36,866千円、営業利益につきましては、前連結会計年度比5,864千円増加の9,439千円となりました。

2)次期の見通し

今後も、気候変動や海外情勢の動向、国の景気対策や構造改革による経済環境の変化等により、当社グループを取巻く社会環境及び消費動向は刻々と変化を続け、かつ、予測し難い状況が続くものと思われま

す。このような状況の中、当社グループといたしましては、あらゆる状況の変化をいち早く察知し、迅速に対応することを念頭に、常に新しい思考回路を持ち、変化に応じた最適な付加価値の創造と、いかなる状況の変化にも揺るがない、お客様に喜ばれるサービスの提供を最重要課題と位置付け、次のとおり具体的な施策を講じ、業績の向上に努めてまいります。

(遊園地事業)

九州の『グリーンランド』におきましては、グリーンランド独自のイベント開催や、四季折々の自然景観を織り交ぜた園内の空間演出等に力を入れてまいります。春のイベントにつきまして、メインイベントの「仮面ライダーウィザード超魔法伝」におきましては、期間を前後半に分け、前半の平成25年3月2日から4月19日の49日間は「平成ライダー戦記」、後半の平成25年4月20日から5月31日にかけての42日間及び6月8日から6月30日までの土・日にかけての8日間は「昭和ライダー戦記」と題し、巨大ステージを使用したワイヤーアクションや様々な仕掛け等、こどもから大人まで楽しめる臨場感満点のショーを開催いたします。また、6月1日と2日におきましては、仮面ライダーとスーパー戦隊シリーズが共演するスペシャルイベントを開催いたします。さらに、平成25年3月16日から5月6日にかけては、「初音ミクとあそぼうっ！ in グリーンランド」と題し、若年層を中心に注目度が高い「初音ミク」をテーマに、ギャラリーをはじめ、スタンプラリーやアトラクションを組み合わせた園内イベント等を開催いたします。この他に笑いライブ等、時流に合わせた様々なイベントにより、集客を図ってまいります。それ以降につきましても、各世代で話題性の高い題材を選定し、ここでしか見ることのできないイベントを季節毎に開催し、集客を図ってまいります。

遊園地の安全面につきましては、お客様の安全安心を確保するために、細部まで行き届いた安全管理を徹底いたします。また、日本一のアトラクション数を誇る遊園地として、さらなる魅力の発信に取り組むとともに、園内におきましては、あらゆる角度から見た景観の工夫や空間演出に努め、お客様に楽しんでいただけるよう努めてまいります。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、繁忙日をメインとした様々なイベントの開催に加え、毎年恒例の夏のコンサート「JOIN ALIVE (ジョインアライブ)」につきましては、開催日を2日追加し、合計4日間開催され、昨年以上の盛り上がりを実現いたします。この他にも、夏休みや秋の休日を中心に、多彩なイベントを開催し、集客に努めてまいります。いわみざわ公園管理業務におきましては、今年岩見沢市で開催される「第22回ばら制定都市会議(ばらサミット)」に向けた、バラ園の整備・改善に全力を挙げてまいります。また、ばらサミットの開催を機に、いわみざわ公園の話題性をより一層高めるために、積極的な情報の発信に努め、利用者の獲得に取り組んでまいります。

『北海道グリーンランドホワイトパーク(スキー場)』におきましては、宿泊セットプランや卒業旅行プラン等の販売による集客をはじめ、スキーやスノーボードの講習会や検定会の開催による学校団体等の誘致に努めてまいります。

なお、『モビリティおおむた』におきましては、賃借している土地につきまして、賃貸人との合意解約により、平成25年3月31日をもって、営業を終了いたします。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、3ゴルフ場ともに、様々なイベントの開催及びインターネットやその他媒体を駆使した情報発信の強化に取り組み、集客を図ってまいります。また、お客様により快適にプレーしていただくために、戦略性を高め、変化に富んだコース作りや施設面のリニューアルに加え、円滑な進行管理対策の実施やキャディ教育の強化を図る等、様々な改善に取り組んでまいります。

さらに、中国南山国際ゴルフクラブ、韓国の蔚山カントリークラブ、釜山カントリークラブ、パミーヒルズカントリークラブとの相互施設利用提携に加え、昨年締結した昌原(チャンウォン)カントリークラブとの相互施設利用提携を含めた、5つの海外ゴルフ場との情報交換やメンバー間の交流等、さらに連携を強化し、外国人ゴルファーの獲得に努めてまいります。

(ホテル事業)

『ホテルブランカ』ならびに『ホテルヴェルデ』におきましては、グリーンランドリゾート各施設の中心に位置する宿泊拠点としての役割に磨きをかけ、より一層の魅力度向上に努めてまいります。具体的には、館内外のイルミネーション強化をはじめとする景観の整備や、レストラン各店舗の空間演出を工夫し、特色ある店舗作りに努めますとともに、商品企画部を中心に、新たな宿泊プランや宴会プラン及び様々なイベントの開催に取り組み、さらには、ホームページやブログ等による情報発信を強化し、集客を図ってまいります。また、昨年実施した空調機器の更新に続き、給湯機器や照明機器等の省エネ化を推進し、費用削減に努めてまいります。

北海道の『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』におきましては、引き続き地域密着型の営業展開を心がけ、特色あるイベントやプラン展開に努め、地元のお客様を中心に、より一層楽しんでいただける施設作りに取り組みますとともに、ホテルの魅力作りの見直しや集客に繋がる設備投資の実施等に取り組んでまいります。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、新規テナントの誘致をはじめとする、グリーンランドリゾートエリアを中心とした土地のさらなる有効活用に取り組んでまいります。また、固定資産税評価額のさらなる検証をはじめ、各事業の借地物件に関しましては、引き続き借地料の見直しを行ってまいります。

なお、ウルトラマンランド賃貸地につきましては、ウルトラマンランドからの営業終了の申入れに伴い、平成25年9月22日をもちまして当該土地賃貸借契約を解約いたします。

(土木・建設資材事業)

建設資材販売事業におきましては、既存事業による安定した収益確保に加え、当社グループ間における土木建設工事の積極的な受注や、機械装置や技術者を活用し、収益体制の底上げを図ってまいります。

(その他の事業)

その他の事業におきましては、各事業ともに既存の収益体制を見直し、新たな事業組織体制の構築に努め、事業効率化を図ってまいります。

当社グループとしましては、お客様に「夢や感動」を提供する企業であり続けるために、キャッチコピーである「ココロをみどりでいっぱい。」を企業理念の柱とし、全社員が、常にお客様と向き合い、お客様が喜ぶようなサービスとは何かを常に意識し、自ら積極的にお客様とコミュニケーションを図ること、さらには、お客様目線での改善や創意工夫を最優先課題として取り組むことで、より一層の企業価値の向上、ひいては業績のさらなる向上に努めてまいり所存であります。

通期の業績予想につきましては、売上高7,700百万円(前年同期比+0.9%)、営業利益290百万円(前年同期比+7.5%)、経常利益220百万円(前年同期比+7.1%)、当期純利益130百万円(前年同期比+2.2%)を見込んでおります。

(2) 財政状態に関する分析

1) 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、21,676,754千円（前連結会計年度比8,675千円増加）となりました。

流動資産は、774,329千円（前連結会計年度比326,835千円減少）となりました。主な要因は受取手形及び売掛金の減少、土地への振替に伴う販売用不動産の減少等によるものであります。

固定資産は、20,902,424千円（前連結会計年度比335,511千円増加）となりました。主な要因は有形固定資産の取得、販売用不動産からの振替に伴う土地の増加等によるものであります。

流動負債は、4,553,206千円（前連結会計年度比432,234千円増加）となりました。主な要因は短期借入金増加等によるものであります。

固定負債は、6,954,481千円（前連結会計年度比498,144千円減少）となりました。主な要因は長期借入金及び長期預り金の減少等によるものであります。

純資産は、10,180,030千円（前連結会計年度比65,859千円増加）となりました。主な要因は利益剰余金の増加等によるものであります。

2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は投資活動によるキャッシュ・フローで371,473千円、財務活動によるキャッシュ・フローで235,791千円それぞれ減少したものの、営業活動によるキャッシュ・フローで633,148千円増加したことにより、前連結会計年度末に比べ25,883千円増加し、310,870千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、633,148千円（前連結会計年度に比べ249,576千円増加）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益により229,392千円、減価償却費により459,946千円、資金がそれぞれ増加したためであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は、371,473千円減少（前連結会計年度に比べ313,367千円減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出で380,993千円、資金が減少したためであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、235,791千円減少（前連結会計年度に比べ115,192千円増加）となりました。これは主に、長期預り金の返還により209,300千円、配当金の支払により61,362千円、資金がそれぞれ減少したためであります。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社では、利益配分につきまして、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付け、安定的な剰余金の配当に配慮するとともに、連結業績ならびに今後の事業展開等を勘案した適正な配当を実施することを基本方針としております。

内部留保金の用途につきましては、経営体質の一層の充実、ならびに将来の事業展開に役立ててまいりたいと存じます。以上の方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株につき4円となる予定であり、中間配当金2円を含めると年間配当金は1株につき6円となる予定であります。

また、次期の配当金につきましては、1株につき中間配当金を2円、期末配当金を4円の年間配当金6円を予定しております。

2. 企業集団の状況

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社4社ならびにその他の関係会社1社で構成されており、遊園地・ゴルフ・ホテルのレジャー事業を主な内容とし、不動産事業については、不動産の売買・賃貸を行い、土木・建設資材事業として土木工事受注のほか、建設資材の販売・運搬等を行い、また、その他の事業として労働者派遣業、生損保保険代理店等営業業務、都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けならびに事業の種類別セグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、事業区分は事業の種類別セグメントと同一であります。

また、西部瓦斯株式会社につきましては、間接所有を含め当社の発行済株式数の24.23%を所有しており、当社は同社の持分法適用の関連会社であります。

<遊園地事業>

グリーンランド（九州）	当社が当遊園地を経営しており、有明リゾートシティ株式会社が園内飲食店の内3店舗、グリーンランドサービス株式会社が園内売店の内3店舗を、当社より受託して運営しております。
モビリティおおむた（九州）	グリーンランド開発株式会社が当施設を経営しております。
北海道グリーンランド遊園地（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が当遊園地を経営しております。
北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が当スキー場を経営しております。

<ゴルフ事業>

グリーンランドリゾートゴルフコース	当社が当ゴルフ場を経営しております。
有明カントリークラブ大牟田ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。
久留米カントリークラブ広川ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。

<ホテル事業>

グリーンランドリゾートオフィシャルホテルブランカ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
グリーンランドリゾートオフィシャルホテルヴェルデ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
北海道グリーンランドホテルサンブラザ及び北村温泉ホテル	空知リゾートシティ株式会社がホテルサンブラザを経営しております。また同社は、岩見沢市より指定管理者としての指名を受け、北村温泉ホテルの運営管理業務を行っております。

<不動産事業>

不動産	当社が不動産の売買・賃貸を行っております。
-----	-----------------------

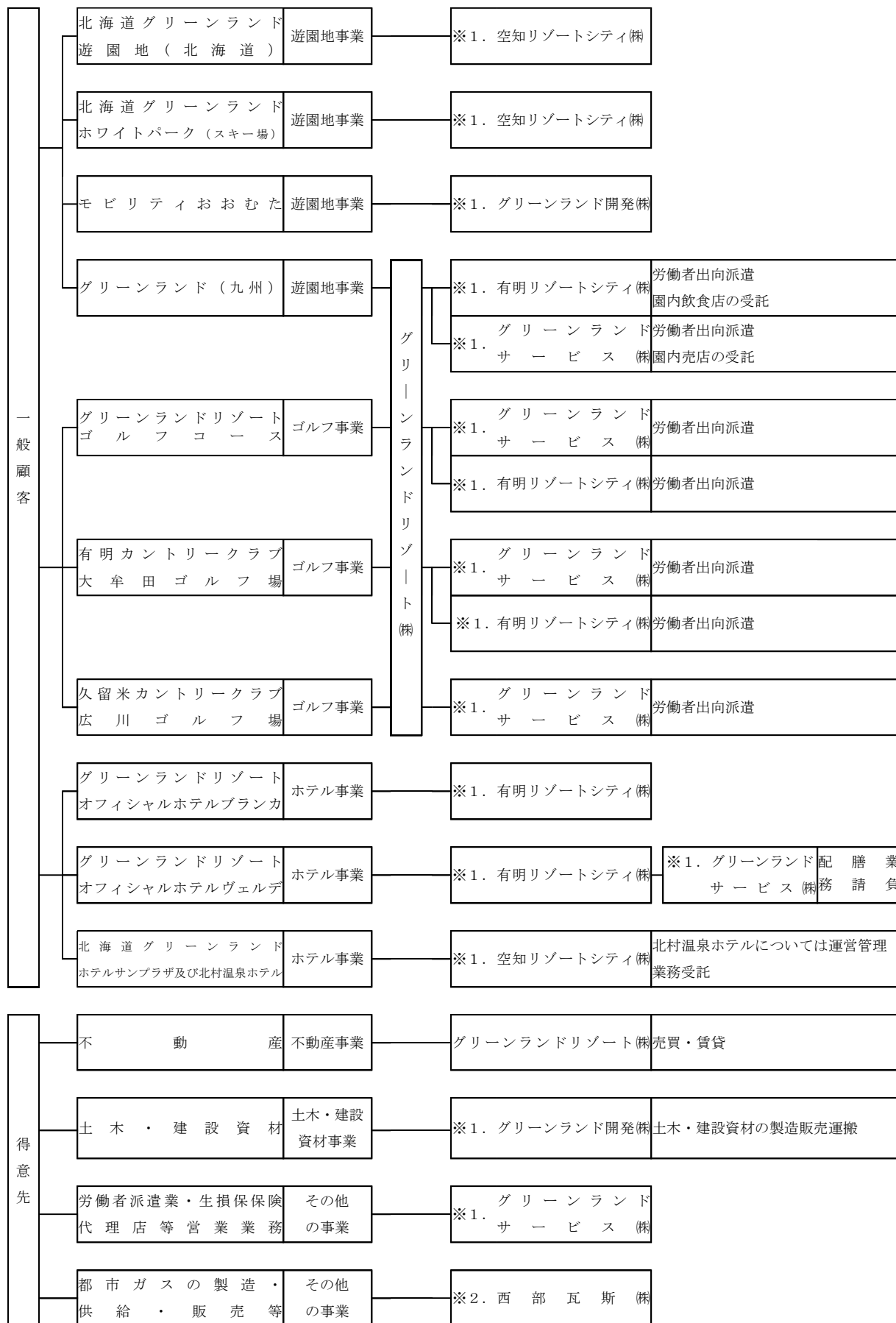
<土木・建設資材事業>

建設資材の製造・販売・運搬事業	グリーンランド開発株式会社が土木工事受注のほか、建設資材を製造・販売・運搬しております。
-----------------	--

<その他の事業>

労働者派遣業・生損保保険代理店業等	グリーンランドサービス株式会社が労働者派遣業・生損保保険代理店業務等の営業業務を行っております。
都市ガスの製造・供給・販売等	西部瓦斯株式会社が都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。

上記の当社グループの状況について事業系統図を示すと次のとおりであります。



(注) ※1. 連結子会社

※2. その他の関係会社

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

創業以来現在まで、たゆまぬ創造・革新によってお客様に常に満足を提供することを心がけてまいりました。これからも企業理念のキャッチコピーである「ココロを『みどり』でいっぱい。」を合言葉に、各事業におきまして、お客様に夢や感動を提供することを最重要課題と位置付、スタッフ一人一人が、いかなる状況の変化にも対応し、その状況を突破するための柔軟な発想と実行力を持つことに重点を置き、新しい付加価値を次々と創出していくことで、当社グループ事業の「強み」に磨きをかけ、日々変化する顧客ニーズや消費動向に対応するとともに、当社グループ事業の競争力を高めることで業績向上に努めてまいります。

また、企業として利益の確保に向けた経営を進めていくことはもちろんのこと、社会的責任を自覚の上、法令の遵守や倫理に則った企業活動を実践し、地域発展への貢献にも努め、すべてのステークホルダーから「信頼」される企業を目指してまいります。

(2) 目標とする経営指標

目まぐるしく変化する消費動向に対応し、常に変化し続ける営業体制作りを心がけ、様々な商品やサービスの提供に努めて集客を図り売上増加を目指すとともに、現状分析及び関連設備の全面的な見直しを行い、無駄な経費の削減に努めてまいります。

このため、売上高経常利益率の向上を目標としております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

集客事業を柱とする当社グループでは、多彩なイベントの開催・季節に応じたキャンペーンの造成・昨今増加しつつある女性層や若年層に的を絞った戦略・さらには海外からのお客様に向けた制度を最大限に活かした営業展開や商品の販売強化に引き続き取り組み、さらなる集客を図ります。

また、外部環境に柔軟に対応可能な組織変更やグループ再編による各事業の効率化の実現を目指してまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

レジャー産業を取り巻く社会環境は、刻々と変化を続け、消費動向や顧客ニーズはさらに多様化し、依然として厳しい状況が続くものと思われませんが、当社グループとしましては、企業理念である「夢や感動を与える企業」を目指し、お客様一人一人と向き合い、子どもたちに夢を与え、また、多くのお客様に感動をお届けできるような魅力ある施設作りや、真心を込めたサービスの追求に努めていくことで、一人でも多くのお客様にご利用いただき、さらなるリピーターの獲得に取り組み、業績向上に努めてまいります。

また、これまでも増して、遊園地の安全面について万全の体制を敷き、お客様に安心して楽しんでいただけるよう、施設の点検整備並びに園内環境整備の取り組みを基本とし、さらには、園内において様々な空間演出に力を入れ、賑やかさを創り出し、お客様により一層の楽しさを提供してまいります。

4. 連結財務諸表
 (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	290,687	313,970
受取手形及び売掛金	291,926	259,000
有価証券	999	—
商品及び製品	30,401	43,159
原材料及び貯蔵品	45,160	52,803
販売用不動産	347,537	7,130
繰延税金資産	15,220	18,923
その他	98,711	98,136
貸倒引当金	△19,480	△18,795
流動資産合計	1,101,165	774,329
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,065,052	13,047,910
減価償却累計額	△8,180,395	△8,421,754
建物及び構築物（純額）	4,884,656	4,626,155
機械装置及び運搬具	2,859,352	3,140,160
減価償却累計額	△2,551,394	△2,657,850
機械装置及び運搬具（純額）	307,957	482,309
土地	14,432,411	14,782,352
リース資産	26,785	65,711
減価償却累計額	△8,704	△14,490
リース資産（純額）	18,080	51,221
建設仮勘定	3,433	—
その他	1,004,507	1,032,647
減価償却累計額	△938,201	△960,010
その他（純額）	66,306	72,637
有形固定資産合計	19,712,845	20,014,676
無形固定資産		
その他	238,515	245,707
無形固定資産合計	238,515	245,707
投資その他の資産		
投資有価証券	185,502	199,079
繰延税金資産	333,453	325,195
その他	97,874	119,044
貸倒引当金	△1,279	△1,279
投資その他の資産合計	615,551	642,040
固定資産合計	20,566,913	20,902,424
資産合計	21,668,078	21,676,754

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	78,972	79,953
営業未払金	91,727	84,680
短期借入金	3,564,996	3,920,380
リース債務	4,904	9,747
未払金	226,826	245,626
未払法人税等	28,091	85,697
その他	125,451	127,121
流動負債合計	4,120,971	4,553,206
固定負債		
長期借入金	3,529,920	3,209,674
長期預り金	3,739,311	3,536,111
リース債務	13,272	49,323
退職給付引当金	34,160	13,768
役員退職慰労引当金	42,538	42,538
その他	93,422	103,065
固定負債合計	7,452,626	6,954,481
負債合計	11,573,597	11,507,687
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	1,208,411	1,274,342
自己株式	△42,176	△42,247
株主資本合計	10,114,171	10,180,030
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△19,690	△10,964
その他の包括利益累計額合計	△19,690	△10,964
純資産合計	10,094,480	10,169,066
負債純資産合計	21,668,078	21,676,754

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	7,329,865	7,635,507
売上原価	6,588,347	6,798,943
売上総利益	741,518	836,563
販売費及び一般管理費	571,274	566,658
営業利益	170,243	269,905
営業外収益		
受取利息	296	192
受取配当金	3,753	4,007
受取賃貸料	3,250	3,256
受取保険金	—	10,837
助成金収入	13,900	7,123
受取補償金	10,251	2,586
雑収入	4,865	4,452
営業外収益合計	36,318	32,455
営業外費用		
支払利息	107,553	94,660
雑損失	6,282	2,265
営業外費用合計	113,835	96,925
経常利益	92,726	205,435
特別利益		
固定資産売却益	10,304	3,431
受取保険金	—	40,792
収用補償金	10,519	3,882
その他	4,472	900
特別利益合計	25,296	49,006
特別損失		
固定資産除売却損	1,512	1,203
減損損失	—	7,214
災害による損失	—	15,618
固定資産圧縮損	—	1,012
特別損失合計	1,512	25,049
税金等調整前当期純利益	116,510	229,392
法人税、住民税及び事業税	58,143	102,451
法人税等調整額	1,155	△296
法人税等合計	59,298	102,155
少数株主損益調整前当期純利益	57,212	127,237
当期純利益	57,212	127,237

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	57,212	127,237
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,989	8,726
その他の包括利益合計	1,989	8,726
包括利益	59,201	135,963
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	59,201	135,963
少数株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	4,180,101	4,180,101
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	4,180,101	4,180,101
資本剰余金		
当期首残高	4,767,834	4,767,834
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	4,767,834	4,767,834
利益剰余金		
当期首残高	1,212,506	1,208,411
当期変動額		
剰余金の配当	△61,307	△61,306
当期純利益	57,212	127,237
当期変動額合計	△4,095	65,930
当期末残高	1,208,411	1,274,342
自己株式		
当期首残高	△42,154	△42,176
当期変動額		
自己株式の取得	△21	△71
当期変動額合計	△21	△71
当期末残高	△42,176	△42,247
株主資本合計		
当期首残高	10,118,288	10,114,171
当期変動額		
剰余金の配当	△61,307	△61,306
当期純利益	57,212	127,237
自己株式の取得	△21	△71
当期変動額合計	△4,116	65,859
当期末残高	10,114,171	10,180,030

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△21,680	△19,690
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,989	8,726
当期変動額合計	1,989	8,726
当期末残高	△19,690	△10,964
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△21,680	△19,690
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,989	8,726
当期変動額合計	1,989	8,726
当期末残高	△19,690	△10,964
純資産合計		
当期首残高	10,096,607	10,094,480
当期変動額		
剰余金の配当	△61,307	△61,306
当期純利益	57,212	127,237
自己株式の取得	△21	△71
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,989	8,726
当期変動額合計	△2,126	74,585
当期末残高	10,094,480	10,169,066

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	116,510	229,392
減価償却費	445,564	459,946
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△2,788	△20,392
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△11,240	△684
受取利息及び受取配当金	△2,975	△4,199
支払利息	107,553	94,660
受取保険金	—	△40,792
固定資産売却損益 (△は益)	△10,304	△3,431
固定資産除売却損益 (△は益)	1,512	1,203
売上債権の増減額 (△は増加)	△33,862	30,086
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△4,594	320,006
たな卸資産から有形固定資産への振替	—	△340,406
仕入債務の増減額 (△は減少)	26,177	△6,067
未払金の増減額 (△は減少)	△36,678	27,776
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△6,857	△13,150
その他	△6,386	△7,183
小計	581,630	726,763
利息及び配当金の受取額	2,975	4,199
利息の支払額	△107,298	△93,698
保険金の受取額	—	40,792
法人税等の支払額	△95,600	△44,908
法人税等の還付額	1,864	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	383,572	633,148
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△6,000	△5,800
定期預金の払戻による収入	3,600	8,400
有価証券の取得による支出	△999	—
有価証券の売却による収入	998	999
有形固定資産の取得による支出	△78,293	△380,993
有形固定資産の売却による収入	19,365	2,876
無形固定資産の取得による支出	—	△374
貸付金の回収による収入	3,333	3,333
その他	△110	84
投資活動によるキャッシュ・フロー	△58,105	△371,473
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△138,000	294,850
長期借入れによる収入	1,450,000	1,140,000
長期借入金の返済による支出	△1,379,506	△1,399,712
長期預り金の受入による収入	100	6,100
長期預り金の返還による支出	△217,700	△209,300
リース債務の返済による支出	—	△6,295
自己株式の取得による支出	△21	△71
配当金の支払額	△61,144	△61,362
その他	△4,711	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△350,984	△235,791
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△25,517	25,883
現金及び現金同等物の期首残高	310,504	284,987
現金及び現金同等物の期末残高	284,987	310,870

(5) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(6) 連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等)

セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、遊園地やホテル等の経営及び運営等を主な事業としていることから、サービス別に報告セグメントを、「遊園地事業」、「ゴルフ事業」、「ホテル事業」、「不動産事業」、「土木・建設資材事業」、「その他の事業」として識別しております。

遊園地事業	: 遊園地・スキー場等の経営、運営
ゴルフ事業	: ゴルフ場の経営、運営
ホテル事業	: ホテルの経営、運営
不動産事業	: 不動産の賃貸、売買
土木・建設資材事業	: 建設資材の製造、販売、運搬
その他の事業	: 生損保保険代理店等営業業務、労働派遣業務

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

(単位: 千円)

	報 告 セ グ メ ン ト							調整額 (注) 1、2	連 結 財 務 諸 表 計 上 額 (注) 3
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土 木 ・ 建 設 資 材 事 業	そ の 他 の 事 業	計		
売 上 高									
外部顧客への売上高	3,757,130	1,058,348	1,919,982	153,079	407,338	33,985	7,329,865	-	7,329,865
セグメント間の 内部売上高又は振替高	5,049	21,284	71,242	22,245	9,148	82,421	211,392	△211,392	-
計	3,762,180	1,079,633	1,991,225	175,324	416,487	116,407	7,541,258	△211,392	7,329,865
セグメント利益	265,181	8,386	11,369	99,146	66,563	3,574	454,222	△283,979	170,243
セグメント資産	4,826,965	9,151,823	3,791,427	2,665,847	611,816	111,108	21,158,989	509,088	21,668,078
その他の項目									
減 価 償 却 費	156,749	62,353	171,513	19,601	31,151	191	441,560	4,004	445,564
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	36,834	13,509	24,977	-	5,709	-	81,031	287	81,319

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△271,345千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント資産の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社資産569,705千円が含まれております。その主なものは、当社での余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び本社管理部門の資産であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

	報 告 セ グ メ ン ト							調整額 (注) 1、2	連 結 財 務 諸 表 計 上 額 (注) 3
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土 木 ・ 建 設 資 材 事 業	そ の 他 の 事 業	計		
売 上 高									
外部顧客への売上高	4,065,106	1,043,695	2,029,841	165,142	294,854	36,866	7,635,507	—	7,635,507
セグメント間の 内部売上高又は振替高	4,904	21,179	69,756	18,737	16,651	86,479	217,709	△217,709	—
計	4,070,011	1,064,875	2,099,598	183,879	311,506	123,346	7,853,217	△217,709	7,635,507
セグメント利益	338,950	11,487	47,820	104,356	40,677	9,439	552,731	△282,825	269,905
セグメント資産	4,974,503	9,110,305	3,719,104	2,636,508	593,687	113,318	21,147,429	529,324	21,676,754
その他の項目									
減 価 償 却 費	171,698	61,759	168,613	19,234	34,010	191	455,507	4,261	459,769
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	291,504	35,932	69,208	12,176	20,715	—	429,537	8,636	438,173

- (注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△274,804千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント資産の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社資産597,243千円が含まれております。その主なものは、当社での余資運用資金（現金及び預金）、長期投資資金（投資有価証券）及び本社管理部門の資産であります。
3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
1株当たり純資産額 987.93円	1株当たり純資産額 995.25円
1株当たり当期純利益 5.60円	1株当たり当期純利益 12.45円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
当期純利益（千円）	57,212	127,237
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る当期純利益（千円）	57,212	127,237
期中平均株式数（千株）	10,217	10,217

(重要な後発事象)

前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
該当事項はありません。	該当事項はありません。

5. その他

(1) 役員の変動

1. 代表者の変動

該当事項はありません。

2. その他の役員の変動

(1) 新任取締役候補

取締役（非常勤） 有村文章（西部瓦斯株式会社常務執行役員経理部長）

取締役（非常勤） 上野豊徳（株式会社肥後銀行取締役常務執行役員）

※有村文章氏及び上野豊徳氏は社外取締役候補者であります。

(2) 退任予定取締役

現 常務取締役（常勤） 田畑友三（現 常務取締役経理部、空知リゾートシティ株式会社担当）

※当社特別顧問に就任予定（平成25年3月28日付）

現 取締役（非常勤） 酒見俊夫（西部瓦斯株式会社取締役常務執行役員情報通信部、事業推進部、資材部、原料部、経理部担当）

現 取締役（非常勤） 江口正明（株式会社肥後銀行常任監査役）

※酒見俊夫氏及び江口正明氏は社外取締役であります。

3. 就任予定日

平成25年3月28日

新任取締役候補の略歴

有村文章（アリムラ フミアキ） 昭和29年2月13日生 59歳
昭和51年 4月 西部瓦斯株式会社入社
平成15年 7月 同社事業推進部関連事業室長
平成18年 7月 同社事業推進部長
平成20年 6月 同社理事事業推進部長
平成20年 7月 同社理事経理部長
平成21年 6月 同社執行役員経理部長
平成22年 6月 同社常務執行役員経理部長（現任）

上野 豊徳（ウエノ トヨノリ） 昭和28年2月11日生 60歳
昭和51年 4月 株式会社肥後銀行入行
平成19年 6月 同行理事水道町支店長
平成20年 6月 同行執行役員水道町支店長
平成21年 6月 同行取締役監査部長
平成22年 6月 取締役執行役員監査部長
平成23年 4月 取締役常務執行役員（現任）

グリーンランドリゾート株式会社 新体制（平成25年4月1日）

【取締役級】

代表取締役社長	江里口俊文《再任》	
常務取締役	北岡 鋭毅《再任》	(不動産事業部、施設部担当、遊園地事業部長、グリーンランド開発株式会社担当)
常務取締役	重光 敬明《再任》	(営業部、ゴルフ事業部担当) (有明リゾートシティ株式会社代表取締役社長)
取締役	渡邊 和雄《再任》	(経理部長、不動産事業部長兼社長室長)
取締役	幕 宰《再任》	(有明リゾートシティ株式会社取締役総支配人)
取締役	松野 隆徳《再任》	(総務部長兼ゴルフ事業部総支配人)
社外取締役	有村 文章《新任》	(西部瓦斯株式会社 常務執行役員経理部長)
社外取締役	上野 豊徳《新任》	(株式会社肥後銀行 取締役常務執行役員)
常勤監査役	吉田 博文	
社外監査役	永利 新一	(永利公認会計士・税理士事務所所長)
社外監査役	中尾 哲郎	(中尾総合法律事務所所長)
社外監査役	水本 忠敬	(水本税理士事務所所長)

以 上